

# 温帯低気圧の接近に伴う農作物被害防止対策

令和4(2022)年7月5日  
安足農業振興事務所

気象庁の発表によると、台風第4号は九州で温帯低気圧に変わり、6日には本州の南岸を東へ進む見込みです。

栃木県では、5日昼過ぎから大気の状態が不安定となり、5日夜のはじめ頃から夜遅くにかけて1時間に40ミリの激しい雨が降る見込みです。予想よりも雨雲が発達した場合には警報級の大雨となる可能性もあります。以下の技術対策により被害防止に努めてください。

また、6日にかけて落雷、突風、降ひょうのおそれもありますので、農作物の管理に注意してください

## I 共 通

### 1 大雨対策

- (1) 大雨による冠水等が心配されるので、排水路の点検を行い、冠浸水時の速やかな排水に備える。
- (2) ゴミや刈り払った雑草が水路を塞がないよう、事前に取り除いておく。

### 2 防風網・防鳥網・多目的防災網等の点検、補修

- (1) 網が飛ばされたり破られたりしないよう固定状況を点検するとともに、破損部があると強度が低下するので補修をしておく。
- (2) 目が細かい多目的防災網等を展張している場合は、網の外側に支柱等を建て柵線に固定する。

### 3 ハウスの点検、補修、補強

- (1) 被覆資材の破損部や固定が不十分なところがないか点検し、補修を行っておく。
- (2) 筋交いにより奥行き方向への倒壊を防止する。また、ハウスの肩部を引っ張り資材や、つかえ棒で補強し、変形を防止する。
- (3) 使用していないハウスは、天井や妻面のビニールをはずして風を抜けやすくし、施設の損壊を防ぐ。

### 4 事後対策の準備

- (1) 被害後、速やかに回復措置がとれるよう、排水対策や施設等の修復、病害防除等の準備をしておく。

## II 普通作物

### 1 水稲

- (1) 冠水した場合は、速やかに排水に努める。

### 2 大豆・ハトムギ・そば

- (1) 播種及び出芽直後の場合は、大雨による冠水及び浸水等の影響が大きいため、排水溝の点検をしておく。

## Ⅲ 野菜

### 1 全般

- (1) 強風対策として、ハウスやネットの点検・補修・補強を行う。
- (2) ほ場の冠水及び浸水が懸念される場合は、排水対策に努める。
- (3) 病気が発生しやすくなるので、発生が懸念されるほ場では防除を実施する。

### 2 いちご

- (1) 炭疽病及び疫病が発生しやすくなるので、台風通過前後に登録のある薬剤で防除を実施する。

### 3 なす、きゅうり、トマト等

- (1) 強風による損傷や倒伏を軽減するため、茎や枝を支柱やネット、誘引線によく固定しておく。また、被害を軽減するため、収穫可能な果実は早めに収穫する。

## Ⅳ 果樹

### 1 共通

- (1) 成熟期を迎えた作目・品種においては適期収穫に努める。

### 2 なし・ぶどう等（棚仕立て果樹）

- (1) 強風による枝や果実の損傷を軽減するため、結果枝等を棚によく固定しておく。

### 3 もも・りんご等（立木仕立て果樹）

- (1) 強風による枝や果実の損傷を軽減するため、側枝等太枝に支柱を設置したり、結果枝同士を結束するなどして、固定しておく。

### 4 苗木

- (1) 強風による倒伏を軽減するため、支柱に固定しておく。特に、育苗中の「大苗」は倒伏しやすいので十分注意する。

## Ⅴ 花き

### 1 露地ぎく・露地りんどう等

- (1) 支え用のネットは、支柱を補強し固定化しておく。強風時には、ネットの張りをややゆるめにして折損を軽減する。

### 2 ユーカリ

- (1) 強風による倒伏を軽減するため、支柱に固定しておく。

## Ⅶ 畜産

### 1 畜舎

- (1) カーテン等の固定状況を点検し、補修、補強しておく。
- (2) 雨水の流入が心配される場合は、土のう等により対策を講じておく。
- (3) 車両や飼料、機器を水没しない場所へ移動しておく。
- (4) 風雨により浸水する可能性のある電気設備の防水対策を講じておく。
- (5) 堆肥舎への風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出しないよう、堆肥をシートで覆うなどして流出を防止する。
- (6) 風雨により畜舎が破損し外部から野生動物が侵入しないよう点検をする。

### 2 飼料用とうもろこし

- (1) 水はけの悪い圃場などは明きょを掘削するなど排水路を確保する。
- (2) 絹糸抽出期前後で被災した場合、折損していないもの、軽微な倒伏は回復の可能性があるので、回復状態を良く確認し適期収穫に努める。

### 3 停電による搾乳不能に備えて

- (1) 発電機の準備と燃料の確認を行っておく。
- (2) 停電時に搾乳する場合は高泌乳の牛から行う。また、濃厚飼料の給与は控える。

(注意)

- ※ 農薬の使用に当たっては、使用基準（適用作物、希釈倍数、使用時期、使用回数等）を厳守する。同一成分の使用回数にも制限があるので注意する。
- ※ 農薬散布に当たっては、飛散防止に十分注意する。
- ※ 倒伏、冠水等により土壌等が付着すると、放射性物質に汚染されるおそれがあるので、収穫物に混入しないよう注意する。